

ロータリー初期の歴史解明

大館北 木暮 雅

シカゴ・クラブが創立された一九〇五年から、全米ロータリークラブ連合会が発足するまでの五年間については、とくに不明な点が多過ぎる。文献によっても、かなりの相違があると思う。

おもに小堀憲助著『ロータリー発生史』を引用し、次のことを申し述べたい。

シカゴ・クラブが創立当時のことを調査しようとして、歴史編集委員会を設立したのは一九二四年であった。しかし五年経った二九年に同委員会は、資料に乏しいために、その歴史を正しく記録に残すのは不可能と断を下した。その後、三〇年にシカゴ大学の教授団に調査を依頼した結果が、『ロータリーとは』にまとめられたが、それはまったくおそまつなもので、歴史解明にはならなかった。それに比べ六五年に評論家のオーレン・アーノルドに依頼して著したのが『輝ける奉仕の大道』で、どの書物よりも

詳しく、完璧なものといわれている。

では、なぜ当時の資料がないかと疑問が生じる。それはポール・ハリスが一九〇七年に会長に就任するところには、会員が三〇〇人くらいになり、派閥が生まれてきた。ロータリーは親睦だとする者、奉仕こそロータリーの神髄とする者、その中間派もいたが、両極端な会員によってクラブが二つに分かれてしまい、一〇年に全米ロータリークラブ連合会が発足するまで、内部分立が続いた。

ロータリーが国際的になるにつけ、当時のことが国際舞台にさらけだされては困るので、必要以外の書類は、すべて廃棄処分にしたのではないか。シカゴ・クラブの印刷物は、ハリ・ラグルスが引き受けていたので、実は当時の書類が保管されていたのではないか。息子ケネスは父の印刷業を継ぎ、一九五六―五七年にシカゴ・クラブの会長に就任しており、アーノルドが編集を依頼されたのが、六五年だから、交際があったとしても不思議ではない。

『ロータリー発生史』の改訂版が一九七二年に出版され、アーノルドの文献が引用されているので、彼はかなり短期間で編集したに間違いないだろう。

おそらく、アーノルドは息子のケネスから当時の印刷物を受け取ったとも推理できる。ケネスは、当時の関係者は世を去り、だれにも迷惑が及ばないと考えてのことと想像はできよう。